

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091800138
法人名	有限会社 ケアサービス九州
事業所名	グループホーム ふぁみりー伊川
所在地	福岡県飯塚市伊川字原ノ前1番1 TEL FAX 0948-23-0032

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年3月14日	評価確定日	平成21年3月28日

## 【情報提供項目より平成21年1月2日事業所記入】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人,	常勤換算 7,5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	--------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水・光熱費 15,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	月 30,000円			

### (4) 利用者の概要 1月27

登録人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	要介護2	2		
要介護3	4	要介護4	1		
要介護5		要支援2	1		
年齢	平均 84.8 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年3月に開所したグループホームふぁみりー伊川は、中学校と国道を挟み道1本入った閑静な住宅地で、東伊川公民館前にある平屋作り1ユニットのホームである。居室兼食堂は、天井が高く天窓から日が差し、どっしりとして大きな梁は昔懐かしい造り家を想わせる。入居者は座り心地の良いソファ等夫々お気に入りの居場所、おしゃべりや新聞を読んだり寛いでいる。各居室は掃きだしサッシ戸から日が差し込み明るく開放感があり、テラスにはプランターの花や植木鉢が置かれ、居心地の良い居室づくりがある。職員は市内の系列事業所で人権研修を実施したり、相互訪問で交流することで、ケアの向上に取り組んでいる。協力医療機関の定期的な往診と看護師の訪問で健康管理を支援している。開設当初から隣組みの自治会に加入し、近隣の散歩等で入居者は日頃から地域の方と挨拶を交わしたり、夏祭りや餅つきの参加を呼びかけたり、ホーム前の公民館で毎月開催されている「いきいきサロン」に入居者が参加する等、地域住民との交流が定着しつつある。地域密着型サービスとして今後の取り組みが期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員会議で外部評価を受けることで、サービスの向上に活用したいと話し合っている。全職員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめる中で、水分摂取の少ないことに気づき、3月から水分摂取量の記録に取り組んでいる。また、夜間の避難訓練の必要性を認識し、今後取り組む予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を定め、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催され、会議録はいつでも閲覧できるように玄関に整備している。会議では、成年後見制度等の研修や運営委員の地域包括支援センター職員より人権擁護の話をしてもらったり、ホームの取り組みの報告や行事を案内し、委員の意見をサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の訪問時や家族懇談会で報告したり、2ヶ月に1回発行している家族向けの「ふぁみりー通信」で、受診状況や体調、ケアの様子、行事レクリエーションの参加時の様子等の日頃の暮らしぶりや健康管理、行事案内や介護目標を報告している。入居者毎に金銭出納台帳を整備し、領収書や利用明細と家族に毎月送付している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設当初より自治会に加入しているので、回覧板が廻ってくる。ホーム玄関前の道路を挟んで真向かいの地区公民館で毎月開催される生き生きサロンには、3名の入居者が参加している。近隣から、入居者に訪問があったり、散歩時の声掛けや野菜の差し入れがあり、夏祭りや餅つきでの地域との交流は入居者の楽しみになっている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして理解があり、地域との交流・連携が実践されているが、重要事項説明書・契約書に地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」の記載がない。運営理念は整備しているが掲示されていない。	○	重要事項説明書・契約書に地域密着型サービスの方針である「地域との交流の下」の明記や重要事項説明書の掲示をお願いしたい。また見直した運営理念を入居者・家族・職員が見やすいように大きく掲示をお願いしたい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議で理念を唱和しているが、管理者は共有は今後の課題であると話している。介護計画の長期・短期目標を具体的に記載することで、全職員で理念を実践していきたいと考えている。	○	毎朝のミーティングや入居者の個別ケアの中で、機会あるごとに理念の共有に努めて頂きたい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より自治会に加入しているので、回覧板が廻ってくる。ホーム玄関前の道路を挟んで真向かいの地区公民館で毎月開催される生き生きサロンには、3名の入居者が参加している。近隣から、入居者に訪問があったり、散歩時の声掛けや野菜の差し入れがあり、夏祭りや餅つきでの地域との交流は入居者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で外部評価を受けることで、サービスの向上に活用したいと話合っている。全職員で自己評価に取り組み、管理者が取りまとめる中で、水分摂取の少ないことに気づき、3月から水分摂取量の記録に取り組んでいる。また、夜間の避難訓練の必要性を認識し、今後取り組む予定である。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を定め、適切なメンバーで2ヶ月毎に開催され、会議録はいつでも閲覧できるように玄関に整備している。会議では、成年後見制度等の研修や運営委員の地域包括支援センター職員より人権擁護の話をしてもらったり、ホームの取り組みの報告や行事を案内し、委員の意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、研修の講師を引き受けたり、サービスの向上をめざしている。また、介護相談員が毎月2時間派遣されている		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	運営者・管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を理解し、パンフレットを整備しているが、パンフレットを活用した職員研修や家族への説明と記録の整備がない。	○	パンフレットを活用した職員の研修や、家族への説明と記録の整備、をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や家族懇談会で報告したり、2ヶ月に1回発行している各入居者家族向けの「ふぁみりー通信」で、受診状況や体調、ケアの様子、行事レクリエーションの参加時の様子、日頃の暮らしぶりや健康管理、行事案内や介護目標等を報告している。入居者毎に金銭出納台帳を整備し、領収書や利用明細書を家族に毎月送付している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明者にホーム責任者及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、ホールに意見や苦情の窓口が分かりやすく掲示され、玄関にご意見箱が設置されている。家族会の設置はないが家族懇談会や面会時に意見や要望を伺っている。運営推進会議には11月より家族が出席している。	○	家族が意見の出しやすい場や家族同士の交流の場の提供のためにも家族会の設置をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の退職や系列のグループホームへ職員の都合での異動などあったが、十分な引継ぎを職員全員に行い、利用者のダメージを最小限に抑えるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを活用している。採用要件は「経験」「人柄」「介護に対する気持ち」があることで、性別、年齢の制限はない。服務規程・就業規則を整備し、守秘義務を明記した誓約書や雇用契約書を取り交わしている。定期健康診断を年2回実施し、月に3日間希望日に休める勤務体制にしている。ソファが設置されている休憩室に交替で休憩したり、親睦会で職員の交流が図られている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	年1回全職員参加で、系列の「ふあみりー菰田」「ふあみりー伊川」合同で人権研修を実施している。カンファレンス等で虐待防止を話し合い、運営規程・契約書に身体拘束防止を明記し、身体拘束防止マニュアルは整備しているが、虐待防止マニュアルの整備がされていない。	○	虐待防止マニュアルの整備し、ミーティング等で具体的事例で理解を深めていただきたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所主催の研修会には職員は参加しているが、定例職員会議内の短時間の研修で、年間研修計画を立られていない。スキルアップの研修を受講できるよう、柔軟に対応しているが、段階に応じて計画的に研修する体制には至っていない。職員の悩み等は運営者が対応したり、介護福祉士会に相談したりしている。	○	新任・常勤職員の年間研修計画の作成や段階に応じた研修の受講支援をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に運営法人で加入し、管理者がブロック役員を引き受けている。管理者は、市主催の勉強会や研修に参加し、意見交換や情報収集をしている。職員は系列事業所の相互訪問で交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族の意向を聞き、できるだけ見学や体験入居を勧めている。これまで体験入居後の利用開始者は2名である。見学者アンケートを実施し、入居後の情報収集に生かしている。即入居のケースが多く家族との連絡を密にし、入居後暮らしぶりや、入居者同士の話題等で情報収集し、入居者に寄り添い求めていることや不安を解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念に「入居者の尊厳と心のふれあいを大切に、心地よく安心した生活を提供します」と、日々寄り添うケアを実践している。職員は入居者の得意分野で出番を心がけ、味見をお願いしたり、酢味噌の作り方を教えてもらったり、配膳や後片付け洗濯物たたみ、花の栽培等を一緒に支援し、共に支え合う関係づくりを実践している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の基本情報や意向を日々の会話や支援の中で汲み取り生活リズムを把握しているが、趣味、嗜好、職歴、生活歴等のアセスメント記載が少ない。	○	各入居者から把握した趣味、嗜好、職歴、生活歴等のアセスメントとして、特に入居者ごとの誇りや輝かしい思い出や楽しみみの把握をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画表に入居者や家族の介護に関する意向を記載している。介護計画は把握した家族等の意向や担当者の気づきを全職員参加のカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。介護計画は家族懇談会で運営者・管理者が説明し、意見交換の上署名捺印をもらっている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に担当職員がモニタリングを行い、ミーティングで検討し、介護計画を見直している。入居者の心身の状況の変化は随時家族に連絡し、入居者・家族・主治医に相談し現状に即して介護計画を見直している。家族懇談会にて、計画を説明し入居者や家族の了承を得て署名をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて医療機関受診を支援したり、入居者の要望で週3回訪問リハビリテーションが受けられるように支援している。入院になった場合も医師・看護師・家族と連携し早期の退院を支援している。また馴染みの理髪店・美容室への送迎や、希望者と共に地区公民館のいきいきサロンの参加を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望するかかりつけ医や認知症専門医の受診に同行し、医療機関と情報交換している。毎週金曜日に協力医の往診がある。受診結果は記載し、職員に申し送り等で周知している。緊急時は病状や医師の指示を家族に電話等で報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書と契約書に緊急時の対応や重度化した場合や終末期の看取りに関する指針を整備しているが、重度化した場合や終末期の介護について明記はしていない。ホームを終いの棲家と考えている入居者が想定できるので、今後の取り組みに向けて職員と十分話し合い検討を開始する予定である。	○	ホームで対応できることやできないことを職員と十分に話し合い、明文化や取り組みをお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程・契約書に守秘義務について明記し、守秘義務を明記した誓約書を職員と交わしている。入居者の個人情報使用承諾の同意書や個人情報に関する方針は整備しているが掲示していない。職員は入居者のプライバシーを尊重した声かけや介護で穏やかな対応をしている。	○	個人情報保護に関する規程や利用目的に関する書面の掲示をお願いしたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向を把握し、各入居者のペースに合わせた食事支援や、体調や気分に合わせて1日過してもらいように支援している。買い物やお天気の良い日は近隣を散歩したり、入居者の以前の住まいを訪ねたり、馴染みの場所との関係を大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況や相性を配慮して食卓の席を配置している。配膳やおしぼり置き片付けなど入居者の出来ることを職員と一緒にやっている。入居者の好物や食べたいものを献立に取り入れている。職員はメニューや食事の進み具合を話題にしなが、食事中はテレビを消して、横に座りさりげなく声掛けし食事介助しながら食事してい		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日ごとに入浴で、多種類の入浴剤を入れて入浴を楽しめる支援をしている。入居者間のトラブルを回避するため入浴順序を変えるなど、工夫しながら対応している。入浴拒否には、無理せず、気分が変わって機嫌の良い時に入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の意向に沿って、外出やスーパーへ買物に出かけている。入居者の出来ることを中心に竹細工をしたり掃除や茶碗拭き洗濯物たたみ、プランターの花の手入れ畑づくり等、役割を担ってもらうことが入居者の生きがいや楽しみになっている。喫煙も決められて場所で支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を立て初詣・温泉・季節の花見や紅葉めぐり観音様のお参り等に外出している。日ごろは、入居者が希望するスーパーやトライアルでの買い物への同行や、ホーム周辺の住宅地は静かで日当たりもよく天気の良い日はできるだけ散歩を日課にしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が施錠の弊害を理解し、夜間以外は施錠していない。各居室やホールは掃きだし戸で留め金はあるが内側から開けることが出来る。共用空間を囲んで居室とオープンキッチンがあり、各居室が見渡せ、職員は入居者の傾向や癖を把握している。ホールに続いた玄関に事務所があり、入居者の動向が把握しやすく、玄関が開くとチャイムが鳴る。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡網を作成し、避難経路図を掲示している。年1回入居者・全職員が参加し所轄消防署の指導で避難訓練を実施しているが、夜間想定の方針訓練を実施していない。運営推進会議にて災害時の協力要請をしている。消火器、自動火災報知機、非常通報装置等を整備しているが備蓄がない。	○	今後は夜間の避難訓練と備蓄の整備をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に便秘や貧血が多いため、管理栄養士より1日1400カロリーや栄養のバランスを考慮した献立作成の指導を受けている。近隣の差し入れの野菜等を生かした献立を工夫したり、カルシウム不足を補うため味噌汁にスキムミルクを加えたりしている。入居者毎に毎日食事摂取量を把握したり、嗜好や咀嚼・嚥下状態、貧血等に応じた食事摂取を支援している。水分摂取量の少ないことに気づき、3月から摂取量のチェックに取り組んでいる。体重測定は月2回実施している。	○	便秘や尿路感染、梗塞やせん妄の予防等のためにも、1日1500mlを目標に水分摂取の取り組みをお願いしたい。
kouryo					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部から玄関までスロープに手すりか設置され、車椅子の移動が容易である。タッチ式の玄関ドアから中に入ると、下駄箱の横にベンチが置かれ、腰掛けて履物の着脱ができる。玄関正面には雛飾りがあり共用空間を囲むように居室やトイレがある。入居者が1日の大半を過ごす居間兼食堂は高い天井に天窓から日が差し大きな梁がどっしりとして、昔懐かしい造りで家庭的である。座り心地の良いソファがテレビの前やオープンキッチン前に置かれ、入居者は夫々お気に入りの居場所でおしゃべりや、新聞を読んだり寛いでいる。居間からテラスに出られプランターの花や植木鉢や隣家の廿夏が見える		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入り口には表札があり、掃きだしサッシ戸から日が差し込み明るい開放感のある居室である。居室にはホーム備え付けのベットとクロゼットが設置され、馴染みの家具や仏壇、冷蔵庫、テレビ、好みの籐椅子の持ち込みがあり、本人好みに過ごしやすい居室である。		